

新生大崎中学校の ハード面・ソフト面の整備状況は

計画している物は予定どおり進んでいる



諸木 悦朗 議員

新生大崎中学校の、ハード面・ソフト面の整備状況は、どのようになっているか。

予定どおり進んでいる

教育長

工事の進捗状況については、校庭とテニスコート¹の全面改修や自転車小屋の新設、学校敷地内の整備や駐車場の整備、舗装工事等が完了しており、現在は校門の整備やスクールバスの発着場、管理棟前の舗装工事、学校前の道路拡張・舗装工事

を進めており、計画している物は、予定どおり進んでいる。



新たに整備されたグラウンド

飛散の砂・土埃による影響を危惧するが

諸木議員

大崎中学校の周りには、選果場・給食センター・

一般住宅が隣接しているが、この建物等への飛散の砂・土埃による多大な迷惑がかかると思われるが、スプリンクラー²基で十分対応出来るのか、危惧している。

対応できると思っている

教育長

今回検討のスプリンクラーは、一輪台車式の散水面積が半径20mで、1256㎡の散水能力があり、導水ホース25mを2本用意しており、移動範囲が50mまで可能である。スプリンクラーの移動等についても、一輪台車式なので用務員1人で対応出来ると思っている。なお問題が出た場合は、その都度対応していく。



工事中の正門

統合による諸問題についての見解は

諸木議員

子どもたちが思春期の真只中になる状況の中で、感受性が一番高い時期に当事者になるが、学校統合によるいじめ・不登校等、いろいろ出て来ると思うが、教育長としての諸問題の見解を求める。

地域力を活用しながら進めている

教育長

現在の問題は、基本的な生活習慣が出来ていな

い生徒による施設用品等の破損行為や、集中力の欠如による授業を妨げる行為、学校の規律を守れなかったり、学校の指導を受け入れられない生徒がおり、教育委員会としては、学校やPTAとの連携を密に図りながら、様々な相談窓口の充実や、生徒指導・通学指導などに重点を置いて対策を講じている。また、PTAを超えた地域の有志によるスクールサポーター制度を作って、みんなでその地域力を活用しながら、子どもたちを見守っていくという気運が高まり、今その改善を図る予定で仕事を進めている。

町長の基本的な考えと信念は

諸木議員

町長が4期目の町政に挑むに当たって示した「人・もの・ゆめをはぐくむまちづくりへの挑戦」として掲げた、基本的な考え、信念等について問う。

人、子どもたちに夢を与えることである

町長

過去の総合計画の中で、人とか地域を大切に、ものを大切にしていくということは、基本方針として取り上げてきており、人は地域の財産であり、宝だと思っている。自分たちのまちに誇りを持つような夢作りをやっていくということは、非常に大切なように思っており、次世代を担う子どもたちの人材育成においても、引き続き取り組んで行きたい。最終的に躍動する町作りの原点は、人であり、次世代を担う子どもたちに夢を与えることであると理解している。